

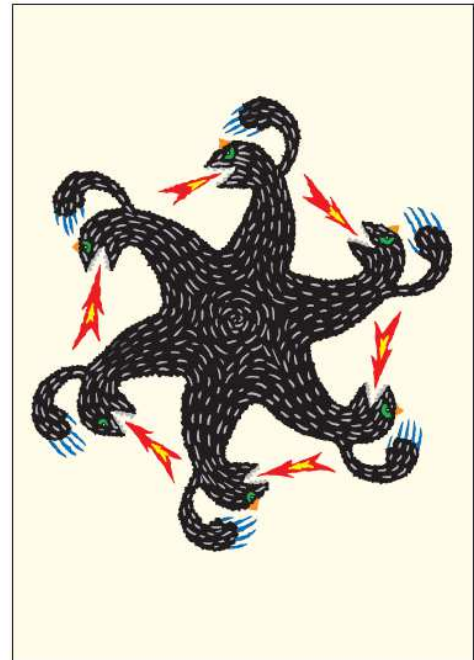
2. 寄稿：「憎しみの連鎖」 “The chain of hatred”

後藤 徹

(日本ユネスコ協会連盟 元評議委員、元金沢美術工芸大学教授)

夫婦ユニットで作った絵本「くるりんぱ」をきっかけに、日本ユネスコ協会連盟と共に世界寺子屋運動*を通して社会貢献活動に参加してから早いもので20年が過ぎようとしている。

活動を通してカンボジア、ベトナム、インド、アフガニスタンなどのアジアの辺境の地で戦争のための貧困、差別のための迫害を受け、必要な教育を受けられない子供たちと実際にワークショップなどを通して関わることによって、今までであるのがあたり前と思っていた、
[平和] [教育] [安全] が人が生きていく上で、いかに大切なことかと知らされた20年と言えるかもしれない。



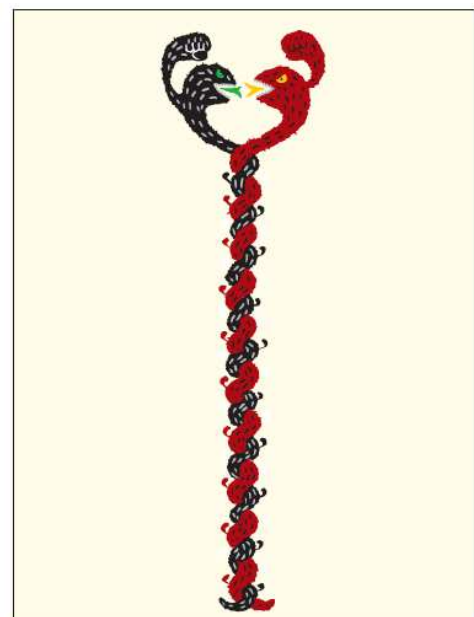
The chain of hatred / 憎しみの連鎖

ユネスコの方たちがよく口にする「憎しみの連鎖を断ち切る」というキーワードがある。強くて重い言葉だ。

実際に、平和な社会で暮らしている我々日本人にとって、人を「憎む」という感情はよっぽどのことがないと出てこない感情である。

しかし、ベトナム戦争で両親を亡くしたベトナムの子供たちの話を聞いたり、カンボジアでは、ポルポト派クメール・ルージュの体制下で、愛する家族全員を目の前で殺された老人の話を実際に聞くと「憎しみ」は消す事のできない「悲しみ」と同じ感情であり、もし自分自身の家族にも同じ悲惨な事が起こり、愛する者を殺されたら、自分も憎しみを激らせ仕返しをしてやると自然に思うに違いない。

復讐心が生まれ、殺され⇒殺し⇒殺され⇒殺すという“憎しみの連鎖”は、世代を超え、あるいは時代を越えて、その感情は受け継がれていく。



The chain of hatred / 憎しみの連鎖

そこを断ち切らない限り、戦争は決して無くならないという根源的な意味の言葉である。

今では、タリバーンの抑圧統治の泥沼から抜け出せない悲惨な状態になってしまったアフガニスタンではあるが、2004年の初め頃、戦争が終わり、平和が少しずつ戻りつつあった。

実際にアフガニスタンで寺子屋を作り現地で子供たちに教鞭を取っているユネスコの方から、

「子供たちが“くるりんぱ”を楽しみにしています。平和になりつつあるアフガニスタンにぜひ来てください。」

という誘いを受けた。

嬉しかった。実際にアフガニスタンに行きたかったし、イスラム文化圏の子供たちを、肌で感じてみたかったからである。



アフガニスタンユネスコ寺子屋

しかし旅の準備を始めてから間もなくして、とんでもないニュースが届いた。9・11以降、イスラム過激派のタリバーンやアルカーイダグループがアフガニスタンに次々拠点を移したことから、急激に政局は悪化し始め、日本人の入国は特別な関係者以外禁止、やむなく出国しなければならない最悪の状態に、なってしまったのである。

どうしてこういう事になってしまったのだろうか？

今までユネスコが培ってきた事は一体何だったのだろうか？

これからこの国の子供たちはどうなってしまうのだろうか？と、自分も何もできない。何もわからない。何もしてあげられない。

今までこの国は、アメリカやロシアの大国のイデオロギーと権力抗争の犠牲になり、さんざん痛めつけられた悲劇の歴史を持ち、やがてその構図が崩れ、復興という兆しが見えたのもつかの間、偏狭なイスラム教原理を第一に考えるその同胞の侵入により、その芽も摘まれてしまったのである。

そして残念ながら、どの国でも、戦争の犠牲になるのは必ず、子供たちだ。彼らは命を奪われ、両親を奪われ、「憎しみ」は純真な心に培養され、やがてたちの悪い大人たちに利用される。ある者は偏った心を持つ戦士に仕立てられ、ある者は自らの命と引き換えに自爆弾という存在にされる。

「憎しみ」という感情から、トカゲに似た大きなしっぽを持った
 邪悪なモンスターのイメージが広がった。
 彼は危険が迫ると、自分のしっぽを自ら切り、邪悪な心を捨て、おとなしくなる。
 しかし、切ったしっぽはやがて生え戻り、
 失ったかに見えた「憎しみ」はそのしっぽから体中の血管を通り、増殖し、
 さらに巨大化した邪悪なモンスターに復活していく。
 そのイメージを描いてみよう。
 ピカソが、祖国の戦争を嘆き、「ゲルニカ」を描いたように、
 ジョンレノンが戦争や、宗教の無い国を想像して「イマジン」を創ったように、
 この行き場の無い気持ちをぶっつけた絵を描いてみようとその時思った。
 遥か遠くにいる、逢いたくても逢えない子供たちの気持ちを思って。

2025 年の今

米国の科学雑誌のキャンペーン「世界終末時計」の針が、
 「残り 89 秒」になったそうだ。

もちろん、過去最短の時間を指している。
 世界は平和になるどころか、
 終末までの針は残酷にもどんどん進ん
 でいるのが現実だ。

パレスチナで、ウクライナで、シリア
 で、憎しみの連鎖の輪が週末までの針
 を進めている。

同じゴッドを信じるキリスト教、イス
 ラム教、ユダヤ教が憎しみあい殺し合
 わなければならないか、、、

「なぜ？」

絵本「くるりんぱ」の1ページに、
 僕の「なぜ？」を描いてみた。



絵本「くるりんぱ」

※この絵本は、くると逆さまにすると、あれ、違うものが見えてくるよ！

*ユネスコ世界寺子屋運動：世界には、働かなければならなかったり学校が近くになかったりして、学校に行けない子どもが、7,500 万人もいます。文字の読み書きができない人が7 億7,600 万人もいます。「学びの場= 寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育の機会をユネスコが提供する運動です。